

事務事業マネジメントシート(平成24年度実績と平成25年度計画)

平成25年 7月26日更新

事務事業名		配水施設(管路)維持管理事業					☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	2	緑豊かな環境と共生するまちづくり				所属部	水道局	課長名	水野 孝春
	施策	9	住環境の充実				所属課	上下水道課	担当者名	高岡英之、田中良知
	基本事業	24	水の安定供給				所属班	管理工務班	(内線)	1157
予算科目		会計企業	款	項	目	事業連番	法令根拠	地方公営企業法、水道法、合志市水道事業給水条例	成果優先度評価結果	③
									コスト削減優先度評価結果	—
終了、開始年度		☐ 24年度で終了 ☐ 24年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (年度)		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	水道事業及び簡易水道事業において整備された配水施設(配水管等)の機能を保持し、安定的な配水を行なうための事業である。昭和37年度から着手した水道(簡易水道)事業により、清浄かつ豊富、低廉な水の供給を回り、公衆衛生の向上と生活環境の改善をめざし計画的に整備された配水施設(配水管等)を適切に維持管理するために事業を開始した。水道利用者数(給水件数)は、平成13年度末(16,687件)から平成18年度末(18,155件)までの5年間で1,468件増加し、その後も増加傾向が続ぎ、平成23年度末(20,770件)まで5年間で2,615件増加しており、それに伴う給水装置工事申請(メーター支給等)及び工事完了(検査)事務も増加している。また、配水施設(配水管等)の老朽化等により漏水が頻発しており、破損等の発生に応じて補修する応急修繕はもとより、積極的に漏水箇所を探索し改善に結び付ける漏水調査等も行なう事業である。
【業務の流れ】	①水道事業給水条例第4条(給水装置の新設等の申込み)の規定による給水装置工事申請受付(内容審査、メーター貸与等)及び完了後の工事台帳による検査事務を行なう。②配水施設(配水管等)について、漏水等の発生により随時、配水管及び給水引込管等の漏水等補修対応事務を行なう。漏水及び破損箇所を復旧するため、現地確認、修繕等に係る工事等の発注その他、必要な契約事務、作業立会、結果報告、改善事務を実施する。[ただし、使用者(所有者)の責任により維持管理すべき部分を除く。]③漏水の復旧対策について、破損等の発生(目に見える漏水)に応じた応急修繕はもとより、積極的に漏水箇所を探索し改善に結び付ける漏水調査業務を行なう。(年1回、地域を定めて専門業者に委託する。契約事務、作業立会、結果報告、改善事務等)④緊急の漏水補修対応に備え、資機材を備蓄し修繕に活用するため、資機材の調達(単価契約)事務及び在庫管理事務を行なう。
【主な予算費目】	営業費用 配水及び給水費(委託料、修繕費、材料費)
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	市監査委員から、限られた水資源を有効に活用し、有収率を上げるため、漏水態様を分析し、さらに効率的な対応に向けて努力するよう意見があった。また、単年で地域を分割して行なっている漏水調査業務について、低迷する有収率の原因を分析するため、市全域を調査してはどうかという意見があった。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
①手段(主な活動) 24年度実績(24年度に行なった主な活動)(DO)		25年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
①562件の給水装置工事申請を受け、完了分の検査事務を実施した。②286件の配水施設(配水管等)の漏水等対応事務を行なった。③漏水調査は、栄温泉団地、合生、御代志、須屋(東須屋、南陽、南須屋、黒石団地)地域を対象に、延長75km、戸別調査5,500戸を実施した。④資機材の備蓄管理のため、単価契約を行い漏水修繕に活用した。		①給水装置工事申請受付、検査事務 ②配水施設(配水管等)の漏水対応事務 ③漏水調査事務 ④資機材備蓄管理事務	
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ ア 給水装置工事申請件数	件		
→ イ 配水施設(配水管等)の漏水対応件数	件		
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等配水施設(配水管等)	(単位)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)	
		→ ア 配水施設(配水管等)の延長	km
		→ イ	
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)機能が保持される。	(単位)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)	
		→ ア 漏水補修等により断水した回数	回
		→ イ	
*③成果指標設定の理由と25年度目標値設定の根拠 漏水補修等により断水した回数をみることで、施設の機能安定した配水ができているかどうかを判断できると考えた。			総トータルコスト 全体計画 ～ 年度 0

(2) 各指標・総事業費 の推移				単位	22年度 実績(決算)	23年度 実績(決算)	24年度 目標(当初予算)	24年度 実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	26年度 予定	27年度 見込	28年度 見込
① 活動指標	ア	件	552	489	500	562	500	450	400	400		
	イ	件	248	282	250	286	300	350	350	350		
② 対象指標	ア	km	303	304	307	307	307	307	365	375		
	イ											
③ 成果指標	ア	回	61	48	50	19	50	50	50	50		
	イ											
投資 入費 量	事業 費	財 源 内 訳	国庫支出金	千円								
			都道府県支出金	千円								
			地方債	千円								
			その他	千円	25,893	32,769	36,418	28,452	36,500	36,600	36,700	36,800
			繰入金	千円	120							
			一般財源	千円								
		(A) 事業費計	千円	26,013	32,769	36,418	28,452	36,500	36,600	36,700	36,800	
			(A)のうち指定経費	千円	107	0	0	0	0	0	0	0
			(A)のうち時間外、特勤	千円	107	0	561	0	561	0	0	0
	人件 費	正規職員従事人数 延べ業務時間	人	5	10	7	9	7	7	7	7	
			時間	1,682	2,050	1,045	1,990	1,000	1,000	1,000	1,000	
			(B) 人件費計	千円	6,929	8,277	4,219	8,101	4,038	4,038	4,038	4,038
トータルコスト(A)+(B)				千円	32,942	41,046	40,637	36,553	40,538	40,638	40,738	40,838

事務事業名	配水施設(管路)維持管理事業	所属部	水道局	所属課	上下水道課
-------	----------------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部 (SEE)

*原則は24年度的事後評価、ただし複数年度事業は24年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①24年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した 漏水補修等により断水した回数は、目標である50回を下回り、19回に留めることができた。配管技術や補修資機材の進歩によるほか、配水本管等の布設替えが進んできたことも向上の要因と考えられる。	☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②25年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 配水本管の布設替えは例年どおり計画されており、突発的な事情(大規模災害:地震等)の発生がない限り目標を達成する見込みはある。	☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 漏水補修等により断水した回数は、0に近づけることが目標であり、向上の余地はある。	☐ 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業は他になく、統廃合・連携の可能性はない。	☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 最小限の予算を確保して補修等の維持管理を行っており、緊急に対応する必要性からも事業費の削減余地はない。ただし、補修等の発生頻度・規模によっては、結果として事業費が安価になる可能性はある。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 事業を兼務(上下水道)することにより、必要最小で維持管理を行っており、削減の余地はない。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 すべて水道料金で維持管理しており、全使用者に受益機会があるため、公平・公正である。	☒ 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 第三者に業務を委託することを検討する余地はあるが、使用者にとって真に信頼できる水道事業であり続ける必要があり、部分的な業務委託を含め、現時点で移行することはできない。	☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

漏水補修等により断水した回数は、目標を達成し、48回に留めることができた。配管技術や補修資機材の進歩によるほか、配水本管等の布設替えが進んできたことが向上の要因と考えられる。しかし、漏水補修等により断水した回数は、0に近づけることが目標であり、さらに向上に努力する。

4 今後の方向性(事務事業担当課案) (PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善) ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善) ☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) 漏水調査のあり方を検討するとともに、各施設の計器類の点検を確実にしない、有収率の向上を図る。		(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○																				
	低下																						
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																							